

【総合戦略 : 序章 大山崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたって】

素 案	修 正 案
<p>(1) 策定の背景、根拠等 ■大山崎町の総合戦略の考え方</p>	<p>(1) 策定の背景、根拠等 ■大山崎町の総合戦略の考え方</p>
<p>【P 4】 本町は、昭和 42 年 (1967 年) 11 月 3 日に町制を施行し、平成 29 年 (2017 年) 11 月 3 日に町制 50 周年の節目を迎える。 本町の歴史をふりかえると、昭和 7 年に国道 171 号線が開通し、昭和 36 年 (1961 年) に工場進出が始まり、昭和 41 年 (1966 年) には円明寺団地が建設され人口が急増した。このころ、大山崎保育所 (昭和 32 年 (1957 年))、第二乙訓中学校 (現大山崎中学校、昭和 46 年 (1971 年))、第二大山崎小学校 (昭和 48 年 (1973 年)) が開設されている。この昭和 30 年代～40 年代にかけて本町の骨格ができ、人口は昭和 61 年 (1986 年) まで増加する。 本町はこのように昭和 30 年代～50 年代に発展成長を遂げた。その後、成長は緩やかとなり、本町の施策も保全・維持型の施策に移行し、成長・発展型の施策は縮小し、徐々に活力を失ってきた側面がある。 一方で、日本経済の高度成長が終焉し、低成長の時代に入り、価値感の多様化、多様性が生まれ、成長・発展志向自体に疑問が呈される状況が生まれくるなかで、本町の現況は、保全・維持型の施策、中高年層や子育て世代に居住地としての魅力として評価され成果を上げているが、一方で、若年層では生活上の不便さやアメニティ不足という負の評価につながる結果となっている。 今後は、町制施行から半世紀を経て、次の半世紀に向けて、これまで評価</p>	<p>【P 4】 本町は、昭和 42 年 (1967 年) 11 月 3 日に町制を施行し、平成 29 年 (2017 年) 11 月 3 日に町制 50 周年の節目を迎える。 本町の歴史をふりかえると、昭和 7 年に国道 171 号線が開通し、昭和 36 年 (1961 年) に工場進出が始まり、昭和 41 年 (1966 年) には円明寺団地が建設され人口が急増し、<u>町域は大都市近郊の農業地域から近郊住宅地へと変わっていった。</u>このころ、大山崎保育所 (昭和 32 年 (1957 年))、第二乙訓中学校 (現大山崎中学校、昭和 46 年 (1971 年))、第二大山崎小学校 (昭和 48 年 (1973 年)) が開設されている。この昭和 30 年代～40 年代にかけて本町の骨格ができ、人口は昭和 61 年 (1986 年) まで増加する。 本町はこのように昭和 30 年代～50 年代に発展成長を遂げた。その後、成長は緩やかとなり、本町の施策も保全・維持型の施策に移行し、成長・発展型の施策は縮小し、徐々に活力を失ってきた側面がある。 一方で、日本経済の高度成長が終焉し、低成長の時代に入り、価値感の多様化、多様性が生まれ、成長・発展志向自体に疑問が呈される状況が生まれくるなかで、本町の現況は、保全・維持型の施策については、中高年層や子育て世代に居住地としての魅力として評価され成果を上げているが、若年層では生活上の不便さやアメニティ不足という負の評価につながる結果となっている。 「大山崎町総合計画策定のための「住民意識調査・職員意識調査」報告書」</p>

素 案	修 正 案
<p>を得てきた政策分野をさらに充実しつつ、新たなまちの扉を開くため、住民の従来のニーズを超えた新しいニーズやウオントへの対応をめざし、都市活力の回復・創生、「まちおこし」計画という強い視点を併せ持つて取り組むことが重要である。新たなまちの扉を開き、“活力の回復・向上”をめざして総合戦略の取り組みを進める。</p>	<p>(平成 27 年 3 月、以下、大山崎町意識調査という) では、「子育て環境」に対する評価は「保健医療福祉」において最も高く、前回調査 (平成 21 年度) より高くなっている。また、合計特殊出生率では、大山崎町は京都府内で 36 市区町村において第 11 位の順位で、ほぼ全国平均 (2010 年) の水準となっている (「京都府少子化要因実態調査」、平成 26 年度)。</p> <p>しかしながら、大山崎町意識調査における「生活基盤」に対する評価では、「鉄道交通の便利さ」が前回調査 (平成 21 年度) と比較し大きく高まっているが、「買物の便利さ」などのその他の「生活基盤」の多くの項目はよい評価に比べて、よくない評価が上回っている。</p> <p>また、本総合戦略を策定するにあたり実施したアンケート調査では、転入者、町外在住在勤者ともに、住みやすいと感じた理由では「緑が多く、自然に恵まれている」が最も高くなっている一方で、住みにくと感じた理由では「ショッピングセンターや商店が少なく、買物や暮らしに不便である」が最も高くなっている。</p> <p>そこで、本戦略では、これまでの調査結果等を踏まえて本町の人口減少に歯止めをかけ、まちの活力の回復・向上をめざして定住を促進し、快適で質の高い、魅力ある「大山崎ぐらし」の創出にめざして、これまで評価を得てきた政策分野をさらに充実しつつ、大都市圏のベッドタウンとしての都市活力の回復・向上、「まちおこし」計画という強い視点を併せ持つて取り組む。</p>

素 案	修 正 案
<p>(2) 目的と位置づけ等 ■次期「大山崎町総合計画」との関係</p>	<p>(2) 目的と位置づけ等 ■次期「大山崎町総合計画」との関係</p>
<p>【P5】</p>	<p>【P5】 相関図を追加</p> <div data-bbox="1151 408 2085 1021" data-label="Diagram"> <p>総合計画</p> <p>まちづくりの基本的方向を示す</p> <p>目的：町民の福祉の向上と住みよいまちづくり</p> <p>基本構想 基本計画 実施計画</p> <p>事業 事業 事業 事業 事業</p> <p>← 整合 →</p> <p>総合戦略</p> <p>地方創生に取り組む戦略を示す</p> <p>目的：人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある町の維持</p> </div>

素 案	修 正 案
<p>(4) 本町の現状と課題</p> <p>■現状</p>	<p>(4) 本町の現状と課題</p> <p>■現状</p>
<p>【P6】</p> <p>※ 策定中</p>	<p>【P7—P13】</p> <p>(人口の動向)～(財政)</p> <p>以下、人口ビジョンの内容を再掲する</p> <p><u>本町の総人口は、昭和60年代の1万6千人台を頂点に減少傾向であるが、近年はほぼ横ばいで推移しており、平成26年(2014年)9月末時点で、15,431人である。</u></p> <p><u>年齢階層別にみると、年少人口(0～14歳)は横ばい、生産年齢人口(15～64歳)は減少であり、高齢者人口(65歳以上)は一貫して増加している。4人に1人以上が65歳以上、10人に1人以上が75歳以上という、本格的な高齢社会を迎えている。</u></p> <p><u>本町の年少人口、高齢者人口、後期高齢者(75歳以上)人口がそれぞれ総人口に占める割合は、全国や京都府の数値と比較するとやや大きくなっている。</u></p> <p><u>更に、これらの推計について見てみると、本町では、年少人口と生産年齢人口は全国の推移と同様に減少傾向を示しているが、高齢者人口は、2034年まで一旦減少した後、2048年に向けて再び増加する推移となっており、特に、生産年齢人口に対する年少人口と高齢者人口の占める割合が全国に比べて2040年以降急激に大きくなっている。</u></p> <p>※ 以下、図表ごとに説明を記載</p>

素 案	修 正 案
<p>(4) 本町の現状と課題</p> <p>■課題</p>	<p>(4) 本町の現状と課題</p> <p>■課題</p>
<p>【P6】</p> <p>※ 策定中</p>	<p>【P14-P15】</p> <p><u>本町の人口動向については、年齢3区分別人口の推計において、年少人口と生産年齢人口が全国の推移と同様に減少傾向を示しているが、高齢者人口については、2034年まで減少した後、2048年に向けて増加となる推移となっている。</u></p> <p><u>特に、本町では生産年齢人口に対する年少人口と高齢者人口割合が、全国に比べて2040年以降急激に大きくなっており、この人口構成改善に向けた取組み課題については次の4点となる。</u></p> <p>※ 以下、4つの課題ごとに記載</p>

素 案	修 正 案
	<p data-bbox="1126 212 2087 295">課題1 交流人口を拡大し、定住やにぎわいに結びつけ、まちの活力の回復・向上させる</p> <div data-bbox="1126 308 2072 1109" style="border: 2px solid #0056b3; border-radius: 25px; padding: 15px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="1227 371 2018 544">● 本町は、天王山や国宝待庵、アサヒビール大山崎山荘美術館など歴史に深くかかわりのある遺産、建造物等の観光スポットが豊富にあるが、近年の観光入込客数、観光消費額はともに数年来、減少傾向。 <li data-bbox="1227 587 2018 759">● アンケート結果においても、町内の観光スポットの認知度はそれほど高くなく、主な観光スポットである大山崎山荘美術館（35.6%）、天王山頂・山崎城跡（34.0%）でさえ約3割半ばにとどまっている。 <li data-bbox="1227 802 2002 879">● 地域の観光資源を活かしきれていない状況がうかがわれるが、本町の観光は成長の余地が大きいと考えられる。 <li data-bbox="1227 922 2018 1050">● 観光振興により訪問者を拡大して町の魅力を知ってもらい、まちなぎわいや定住者の増大に結びつけ、まちの活力を回復・向上することが重要と考えられる。 </div>

素 案	修 正 案
	<p data-bbox="1126 212 2087 295">課題2 若い世代の希望がない、安心して出産・子育てができるようにする</p> <ul data-bbox="1153 308 2060 1353" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="1211 373 2007 448">● 本町の年齢別人口構成を比較してみると、ファミリー層（30歳代の親と学齢期の子）が転入している。 <li data-bbox="1211 493 2007 667">● 社会動態（転入・転出）では、平成24年（2012年）以降は転入超過で推移し、特に25歳～34歳で転入者数が転出者数を大きく上回っている。一方、20歳～24歳で転出が転入を大きく上回っている。 <li data-bbox="1211 711 2007 786">● かつて人口が急増した円明寺の地域では、昭和50年代に約2,000人いた小学生が成人し転出している。 <li data-bbox="1211 831 2007 1005">● 若い世代の転出は、子どもの人口減少に結びつく可能性がある。若い世代の転入をより拡大し、転出をできるだけ抑制して、定住に結びつけるためには、出産・子育ての希望をかなえる必要がある。 <li data-bbox="1211 1050 2007 1270">● そのためには、本町の特性や状況を踏まえ、現在町内で開催されている子育て世代のフリーマーケットのような保護者同士の交流機会を強化するとともに、子育て支援ネットワークを充実させ地域で子育てを支援する環境を強化していくことが重要と考えられる。

素 案	修 正 案
	<p data-bbox="1128 212 2085 293">課題3 アメニティ不足を解消して快適で質の高い生活＝「大山崎ぐらし」の創出</p> <div data-bbox="1146 320 2069 1050" style="border: 2px solid #0056b3; border-radius: 25px; padding: 15px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="1196 379 2018 550">● アンケート調査では日常的な移動、買物、通院等の快適さ（アメニティ）は低い評価となっており、町内のアメニティ不足を解消し、子どもから大人まで誰もが快適で質の高い生活を実感できるようにすることが必要である。 <li data-bbox="1196 595 2018 719">● 町内には商業施設が少ないが、本町の自動車の普及率は高く、隣接市に自動車で移動し購買活動をしていて、日常生活は町域を超えて成り立っている側面がある。 <li data-bbox="1196 764 2018 986">● 今後は、子どもから大人まで各年齢階層に応じた住民の視点で、様々な利用状況・利用手段を想定し移動手段だけではなく、危険な場所・道路の改善の環境整備を含めた快適さを追求し、本町の住民のライフスタイルに合った質の高い生活（「大山崎ぐらし」）を創出することが重要と考えられる。 </div>

素 案	修 正 案
	<p data-bbox="1126 212 2087 295">課題4 人口減少時代の到来。できるだけ早く出生率を高めて人口減少に歯止めをかける</p> <div data-bbox="1146 319 2067 1021" style="border: 2px solid #4a7ebb; border-radius: 25px; padding: 15px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="1193 375 2027 502">● 本町の人口は昭和 60 年代の 1 万 6 千人台を頂点に長期的に減少し、平成 26 年（2014 年）で、4 人に 1 人以上が 65 歳以上となる本格的な高齢社会を迎えている。 <li data-bbox="1193 542 2027 718">● 人口減少は、税収減による行政サービス水準の低下を招く恐れがある。人口減少とそれに伴う経済・産業活動の縮小によって、税収入は減少する一方で、高齢化の進行から社会保障費の増加が見込まれている。 <li data-bbox="1193 758 2027 837">● いますぐに出世率が回復したとしても、経済・産業活動に影響を与える生産年齢に影響するのは 15 年以上先になる。 <li data-bbox="1193 877 2027 957">● できるだけ早く、交流人口拡大によるまちの活力の回復・向上を実現し、若い世代の転出を抑制して、人口減少に歯止めをかける </div>

【総合戦略 第1章 大山崎町総合戦略】

基本目標1 大山崎町への新しい人の流れをつくり、活力を回復・向上させる（素案）

基本目標1 大山崎町への新しい人の流れをつくる（案）

素 案	修 正 案
<p>（1）基本目標</p> <p>【P8】</p> <p>本町に関わりのある人（働きにくる人や大山崎町出身者等）、また、大都市圏にいる地方移住希望者に大山崎の魅力伝え、来てもらい、知ってもらうことを通じて、定住につなげるよう取り組む。</p> <p>また、本町にある観光資源を活かして、観光ボランティア等の住民、観光施設等の関係機関と連携して、地域が一体となって交流人口を拡大するよう取り組む。</p> <p><u>さらに、既存のスポーツイベントを充実するとともに、新しいスポーツイベントを開催して、スポーツ交流による交流人口の拡大に取り組む。</u></p> <p>これらの取り組みを通じて、新しい人の流れをつくり、本町の活力を回復し、向上させる。</p>	<p>（1）基本目標</p> <p>【P17】</p> <p>本町に関わりのある人（大山崎町における在勤者等）、また、大都市圏在住の地方移住希望者に大山崎町の魅力伝え、訪れてもらい、知ってもらうことを通じて、定住につなげるよう取り組む。</p> <p>また、本町にある観光資源を活かして、観光ボランティア等の住民、観光施設等の関係機関と連携して、地域が一体となって交流人口を拡大するよう取り組む。</p> <p>これらの取り組みを通じて、新しい人の流れをつくり、本町の活力を回復し、向上させる。</p>
<p>（2）基本的方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定住希望者の発掘・情報発信をより充実するとともに、定住のための総合的な相談体制を整備し、定住者の拡大に取り組む。 ○ 地域の観光資源や文化財等を活かして交流人口を拡大するため、推進体制を整備し、<u>観光振興策に取り組む。</u> ○ <u>地域が一体となり、スポーツに関連したイベントを開催し、交流人口の拡大に取り組む。</u> 	<p>（2）基本的方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国移住ナビなどへの移住促進情報の発信や、在勤者に向けた移住促進情報の発信など新たな定住者希望者を発掘するとともに、定住のための総合的な相談体制を整備し、定住者の拡大に取り組む。 ○ 地域の観光資源や文化財等を活用して交流人口を拡大するため、推進体制を整備して、<u>観光資源のブランド化に取り組み観光振興の推進を図る。</u> ○ <u>削除</u>

素 案	修 正 案
(3) 具体的な施策と重要業績評価指標	(3) 具体的な施策と重要業績評価指標
<p>①大山崎町への定住の推進</p> <p>転入先・転出元の地域分析やアンケート調査結果から定住の可能性の高いと思われる人に対して、重点的に住みやすさや魅力を情報発信して定住者を発掘する。</p> <p>また、定住希望者の視点に立って相談機能を強化し、定住希望者がスムーズに移住できるよう相談から物件案内や事業者の紹介など切れ目のない支援を実施する。</p>	<p>①大山崎町への定住の推進</p> <p>同左</p>
○大山崎町に関わりある人（働く人や大山崎町出身者等）への情報発信の強化	○移住希望者発掘の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・在勤者への情報発信の強化と町内の施設利用の促進 ・大都市圏や近隣都市の潜在的移住者への情報発信の推進
○定住希望者のための相談機能の強化	○定住希望者のための相談機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の設置
<p>【P 9】</p> <p>②観光資源の発掘・創造から観光資産への促進</p> <p><u>豊富にある観光資源を見つめ直すことにより、観光資源を発掘・創造して「観光資産」まで高めて、町内外に戦略的に情報発信し、観光を軸に交流人口を拡大して、まちの活力を回復・向上する。また、新たな観光ルートや観光テーマを模索し、他市町村との連携を検討する。</u></p>	<p>【P 18】</p> <p>②観光資源の発掘・創造から観光資産への促進</p> <p><u>豊富にある観光資源を見つめ直し、歴史と芸術をテーマに町域全体をミュージアムに見立てるなど、観光資源の新たな発掘・創造とブランド化により「観光資源」を「観光資産」まで高める。そして、ソーシャルネットワークやWebなど多様な媒体を活用して町内外に情報発信する。</u></p> <p><u>観光客の誘致に向けては、乙訓八幡広域観光連絡協議会や京都府山城広域振興局等を通じて他市町村との連携を深め、新たな観光ルートや観光テーマを模索し、「広域マップ」（「ぶらり京乙訓・八幡」「やましる観光広域マップ」等）に反映する。また、観光をテーマで連携できる自治体と新たな観光のあ</u></p>

素 案	修 正 案
	<p>り方（「利休の路」など観光ルートのストーリー化）や情報発信の方法を検討するなど新たな広域観光を促進する。</p> <p>これらの観光振興にあたっては、観光ボランティアや町内で現在自主的にまちおこし活動を実施している住民と連携して、地域で観光振興ができるよう推進する。</p>
○観光資源の発掘・創造のまちづくり	<p>○観光資源の発掘・創造のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興の推進体制の整備 ・観光資源の見直し（ブランド化）と情報発信力の強化 ・インバウンドを見据えた観光の振興
・広域観光によるにぎわいづくり	<p>○広域観光によるにぎわいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町村と連携し観光振興を促進
・歴史遺産の輝くまちづくり	<p>○歴史遺産の輝くまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史資料館の情報発信の強化 ・歴史の学びの推進
<p>③スポーツによる交流の促進</p> <p>これまで実施してきたフェンシング大会などのスポーツ交流をさらに充実するとともに、様々なスポーツ交流のあり方を検討し、交流人口を拡大する。</p>	削除→基本目標3へ
・スポーツ交流で絆を結ぶまちづくり	削除→基本目標3へ

基本目標 2 活力の回復・向上を担う人を育成する

素 案	修 正 案
<p>(1) 基本目標</p>	<p>(1) 基本目標</p>
<p>【P10】</p> <p><u>活力の回復・向上を担う次世代の人を育成するため、「生きる力」を育みつつ、生まれ育ったまちに誇りと魅力を感じることができるよう教育環境の充実に取り組む。</u></p> <p><u>また、若い世代が子どもを安心して産み育てられることができるよう地域全体で子育て家庭に対する支援の輪（ネットワーク）づくりや子育て支援の充実に取り組む。</u></p> <p>これらの取り組みを通じて、活力の回復・向上を担う人を育成し、親の世代だけでなく、子どもが成長して次世代にわたって定住していけるように取り組む。</p>	<p>【P19】</p> <p><u>地域の多様な子育てニーズに対応できるよう保育サービスを充実するとともに、若い世代が子どもを安心して産み育てられることができるよう地域全体で子育て家庭に対する支援の輪（ネットワーク）づくりや子育て支援の充実に取り組む。</u></p> <p><u>また、活力の回復・向上を担う次世代の人を育成するため、「生きる力」を育みつつ、生まれ育ったまちに誇りと魅力を感じることができるよう教育環境の充実に取り組む。</u></p> <p>これらの取り組みを通じて、活力の回復・向上を担う人を育成し、親の世代だけでなく、子どもが成長して次世代にわたって定住していけるように取り組む。</p>
<p>(2) 基本的方向</p>	<p>(2) 基本的方向</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>子育て支援ネットワークをより充実させ、多様な保育サービスを確保し、若い世代が安心して出産、子育てでき、定住していけるよう取り組む。</u> ○ 子どもが成長し、大人になっても定住できるよう、職場体験や本町を知るための学習等を通じて、大山崎町の魅力を子どもたちに伝えることに取り組む。 ○ <u>保幼小連携の充実、小・中学校におけるICT活用、学力の向上など、学校教育等の充実に取り組む。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て支援ネットワークをより充実させ、多様な保育サービスを確保し、若い世代が安心して出産、子育てでき、定住していけるよう取り組む。 ○ <u>子育て家庭の経済的負担の軽減をするため、各種手当制度の普及・啓発の推進を図り、安心して子どもを生み育てられる、ゆとりある家庭環境づくりに取り組む。</u> ○ 保幼小連携教育の充実により小学校への円滑な接続を図るとともに、少人数教育や小中連携教育の充実による学力の向上に取り組む。 ○ <u>地域の子育て力の向上を図り、地域連携による「子育て力」を向上するため、子育てをする家庭や子どもたちを地域で支えていく地域ぐるみのネットワークを推進する。</u>

素 案	修 正 案
	○ 子どもが成長し、大人になっても定住できるよう、職場体験や本町を知るための学習等を通じて、大山崎町の魅力を子どもたちに伝えることに取り組む。
(3) 具体的な施策と重要業績評価指標	(3) 具体的な施策と重要業績評価指標
<p>【P10】</p> <p>①出産・子育てがかなう環境づくり</p> <p>安心して出産・子育てができるよう切れ目のない支援を実施する。<u>多様なニーズに応じた保育サービスを提供するとともに、現在町内で開催されている子育て世代のフリーマーケットのような保護者同士の交流機会を強化して、子育て支援ネットワークの充実を促進する。</u></p>	<p>【P20】</p> <p>①出産・子育てがかなう環境づくり</p> <p>安心して出産・子育てができるよう切れ目のない支援を実施する。<u>特に、子育て家庭の出産・育児に係る経済的負担の軽減を図るため、子育て支援医療費の助成制度をはじめ不妊治療給付助成制度や妊婦健康診査公費負担制度の充実と広報啓発の推進を図る。</u></p> <p><u>また、保護者の就業形態や就業時間の多様化に応じて、延長保育の保育時間拡充や一時預かりの推進、病児・病後児保育の利用者への助成、認可外保育所の運営への補助を実施する。</u></p> <p><u>現在町内で開催されている子育て世代のフリーマーケットのような保護者同士の交流機会を強化促進して、地域全体で子育て家庭に対する支援の輪を広げ、子育て支援ネットワークの充実を促進する。子育て支援センター（ゆめほっぺ）の利用者の増加とセンターを媒介にしたサークルや団体間のつながりづくりを支援して、住民参加の子育て支援環境を充実する。</u></p>
○子どもを安心して生み育てられる環境の充実	○子どもを安心して生み育てられる環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>妊婦健康診査の推進</u> ・<u>乳児家庭全戸訪問事業の推進</u>
○安心・安全な保育の充実	○安心・安全な保育サービスの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>延長保育の提供体制の推進</u> ・<u>一時預かり保育の提供体制の推進</u>

素 案	修 正 案
	<ul style="list-style-type: none"> ・病児・病後児保育の提供体制の推進
○健やかに育つ子育て交流の促進	○健やかに育つ子育て交流の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て援助活動の支援 ・子育てサークル・団体への活動支援
<p>【P11】</p> <p>②「生きる力」をはぐくむ教育環境づくり</p> <p><u>学力や生きる力を育むための教育環境を充実するとともに、地域の「子育て力」を強化して、地域で子育て支援できるようにする。</u></p>	<p>【P21】</p> <p>②「生きる力」をはぐくむ教育環境づくり</p> <p><u>学力や生きる力を育むための教育環境を充実する。学校教育においては、少人数授業やチーム・ティーチング、指導方法の工夫（ICTの活用など）を通じて、基礎学力の向上を図るとともに、総合的な学習の時間などを活用した多様な体験活動を積極的に取り入れ、児童・生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばす教育を推進する。</u></p> <p><u>また、子ども自身が主体的・自律的に考え行動する力を養うとともに、人間性豊かな人格の形成が図られるよう教育を充実するとともに、職場体験学習やふるさと学習を通じて、本町の歴史や魅力を伝える。</u></p> <p><u>そして、子ども会やスポーツ少年団の連携支援を通じて、地域の「子育て力」を強化するとともに、いじめのない学校・地域づくりに取り組む。</u></p>
○児童・生徒の学びの支援	○児童・生徒の学びの支援 <ul style="list-style-type: none"> ・保育所・幼稚園の連携と交流の推進 ・学力向上対策事業の推進 ・小学校におけるICT活用授業の推進
○児童・生徒の生きる力の支援	○児童・生徒の生きる力の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動・学習の推進
○家庭・学校・地域の連携による「子育て力づくり」の支援	○家庭・学校・地域の連携による「子育て力づくり」の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会ネットワークの創出

基本目標3 安心な暮らしを守り、利便性の高い生活を確保する

素 案	修 正 案
(1) 基本目標	(1) 基本目標
<p>【P12】 <u>安心な暮らしを確保するため、防犯・防災につよい環境整備に取り組む。また、町内における交通インフラの充実など都市基盤整備や住環境を整備して定住者が拡大するよう、生活圏の利便性の向上に取り組む。さらに、高齢者となっても安心な暮らしと利便性が確保できるよう地域づくりに取り組む。</u></p>	<p>【P22】 <u>本町の住民のライフスタイルにあった質の高い暮らし（「大山崎ぐらし」）を創出する。本町は京都市や大阪市などの都市圏へのアクセスがよい地域に位置しながら、天王山など自然が豊かなめずらしい地域である。そうした本町の魅力が評価される一方、日常的な買い物の不便さや町内における交通インフラなどアメニティ不足が指摘されている。</u> <u>こうした状況を踏まえ、住んでよし、働いてよし、訪れてよしを実感できる「大山崎ぐらし」の創出をめざして、高齢になってもいつまでも安心できる暮らしの確保、交通インフラなどの都市基盤の整備、及び住環境の整備を通じて、生活圏の利便性が向上するよう取り組む。</u> <u>また、地域コミュニティーの絆を結ぶ地域が一体となった交流イベントや活動の促進を通じて、住民主体による地域づくりに取り組む。</u></p>
(2) 基本的方向	(2) 基本的方向
<ul style="list-style-type: none"> ○ 都市基盤整備によりアメニティ不足を解消する ○ 空き家等の既存ストックの活用し、定住者の拡大を図る ○ すべての人の安心・安全が確保された地域づくりに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての人の安心・安全が確保された地域づくりに取り組む。 ○ 都市基盤整備によりアメニティ不足を解消する。 ○ 空き家等の既存ストックを活用し、定住者の拡大を図る。 ○ <u>地域が一体となった交流イベントやスポーツ大会等の開催による地域づくりに取り組む。</u>
(3) 具体的な施策と重要業績評価指標	(3) 具体的な施策と重要業績評価指標
<p>【P12】 ①「大山崎ぐらし」の維持向上 安心・安全にくらせるよう、自助・共助・公助による地域づくりを推進する</p>	<p>【P23】 ①「大山崎ぐらし」の維持向上 安心・安全にくらせるよう、自助・共助・公助による地域づくりを推進す</p>

素 案	修 正 案
<p>とともに、自主防災組織の充実など、住民主体の地域の防災力や防犯力を強化する。</p> <p><u>住環境などの既存の資源を有効に活用して快適で、本町の住民のライフスタイルに合った質の高い生活を創出する。</u></p>	<p>とともに、自主防災組織の充実など、住民主体の地域の防災力や防犯力を強化する。<u>また、生活圏の利便性を向上させるため、住宅団地などの既存の資源の有効活用や、大山崎町都市計画マスタープランにおける都市拠点の形成をめざして、都市基盤整備を推進する。</u></p>
<p>○住民主体の地域防災力・防犯力の強化の推進</p>	<p>○自助・共助・公助による地域づくりの推進</p> <p>・住民の地域福祉活動への参加の促進</p>
<p>○自助・共助・公助による地域づくりの推進</p>	<p>○住民主体の地域防災力・防犯力の強化の推進</p> <p>・災害に対する「自助」「共助」「公助」の重層的な危機管理体制の整備</p>
<p>○既存ストックのマネジメント強化</p>	<p>○既存ストックのマネジメント強化</p> <p>・空き家の対策の推進</p>
<p>○アメニティ不足解消の推進</p>	<p>○アメニティ不足解消の推進</p> <p>・将来都市構造の構築（「生活拠点（まちのエントランス）」「新生活拠点」「シビックゾーン」「観光・交流拠点」「広域交通活用ゾーン」の形成）</p>
<p>【P9】</p> <p><u>〈基本目標1〉 → 〈基本目標3〉</u></p> <p>③スポーツによる交流の促進</p> <p><u>これまで実施してきたフェンシング大会などのスポーツ交流をさらに充実するとともに、様々なスポーツ交流のあり方を検討し、交流人口を拡大する。</u></p>	<p>【P23】</p> <p>②地域交流イベントやスポーツ交流による地域づくりの推進</p> <p><u>住民意識調査の「10年後の大山崎町の将来像」について“文化活動やスポーツ活動が盛んなまち”と答えた小中学生は約20%あり、これまで実施してきたフェンシング大会などのスポーツ交流をさらに充実するなど、天王山をはじめとする町内資源や施設を活用した様々なスポーツ交流や文化交流による住民主体の地域づくりを推進する。</u></p>
	<p>○地域交流イベントで絆を結ぶちづくり</p> <p>・住民主体に地域交流イベント事業の推進</p>
<p>○スポーツ交流で絆を結ぶまちづくり</p>	<p>○スポーツ交流で絆を結ぶまちづくり</p> <p>・全国規模の大会誘致の促進</p>

基本目標 4 大山崎町における安定した雇用を創出する

素 案	修 正 案
(1) 基本目標	(1) 基本目標
【P13】 <u>定住者が長く住んで行けるよう、地域ブランドの創出などにより、地元産業や地域経済の活性化を図り、安定した雇用創出に取り組む。また、求職者への総合的な職業相談体制を充実させ、職業紹介まで切れ目のない支援に取り組みます。</u>	【P24】 <u>地元企業の交流や地域ブランドの創出などにより、地元産業や地域経済の活性化を図り、安定した雇用創出に取り組む。また、求職者への総合的な職業相談体制を充実させ、職業紹介まで切れ目のない支援に取り組む。</u>
(2) 基本的方向	(2) 基本的方向
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業の交流の機会を創出して、町内の産業振興の活性化を図り、安定した雇用の確保に取り組む。 ○ 産学連携などによる地域ブランドを創出し、地域経済を活性化に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業の交流機会を促進して、町内の産業振興を図り、安定した雇用の確保に取り組む。 ○ <u>就労支援体制を充実し、京都府などの関連機関と連携して、求職相談者の雇用を確保する。</u> ○ <u>中小企業従事者の勤労者福祉の充実に取り組む。</u> ○ 産学連携などによる地域ブランドを創出し、地域経済の活性化に取り組む。
(3) 具体的な施策と重要業績評価指標	(3) 具体的な施策と重要業績評価指標
①地元産業の活性化による雇用の確保 <u>情報交換や業績の拡大に結びつけることを目的に、地元企業が交流する機会を提供し、地元産業を活性化する。また、関連機関と連携した職業相談・職業紹介を充実する。</u>	①地元産業の活性化による雇用の確保 <u>就労支援体制を整備し、「京都ジョブパーク」(京都府)への斡旋や「京都ジョブパーク」の保有する情報の入手など、関連機関と連携した職業紹介に取り組む。</u> <u>乙訓勤労者福祉サービスセンター(「ピロティおとくに」)への中小企業の加入促進を通じて従業員の福利厚生を充実するとともに、地元中小企業への人材の確保を支援する。</u> <u>また、地元企業の情報交換や連携の機会として各種のイベントや行事等へ</u>

素 案	修 正 案
	<u>の参画を促進して地元産業の活性化に取り組む。</u>
○京都府・関連機関と連携した職業相談・職業紹介の充実	○職業相談・職業紹介の充実 ・ <u>京都府・関連機関と連携した職業相談・職業紹介の充実</u>
○中小企業従事者の雇用・福利支援	○中小企業従事者の雇用・福利支援 ・ <u>中小企業従業員の勤労者福祉の向上</u>
・地元企業の交流づくり	○地元企業の交流づくり ・ <u>町内イベント事業等への参画の促進</u>
②地域ブランドの創出による地域経済の活性化 <u>関連機関と連携して地域ブランドを創出するとともに、町内外に地域ブランドを PR し消費需要を喚起して、地域経済を活性化する。</u>	②地域ブランドの創出による地域経済の活性化 <u>町内事業所と住民や大学との連携による特産品開発や既存の特産品（「天王山しぐれ」など）を活用した新しいレシピや加工品を考案して、地域ブランドを創出するとともに、町内外に地域ブランドを PR し消費需要を喚起して、地域経済を活性化する。</u> <u>また、地元農産物の販売所を維持・発展させて、地産地消の消費活動を促進する。</u>
○町内事業所と連携した特産品開発支援	○町内事業所と連携した特産品開発支援 ・ <u>特産品開発とブランド化の創出支援</u>
○地元農産物の消費拡大	○地元農産物の消費拡大 ・ <u>地元農産物の消費拡大</u>